

# JCECS REPORTER

JAPANEZE CANADIAN EVANGERICAL CHRISTIAN SOCIETY 発行

2002年3月

## サマー・ユースミニストリー 2002

このプログラムは、JCECSにとって新しいものではありません。CJMの時代に、サマー・アウトリーチ・ミニストリーは、50年代から70年代まで行なわれ、JCECSも80年代に続けてきたものです。

2002年の夏に、4~6名の若者達が3週間にわたって、アルバータから、あるいはトロントからの交換プログラムを行ないます。彼らは、サニーサイド・キャンプ、またフェアグレン・キャンプでの奉仕も期待されています。

このミニストリーの目的は、伝道の促進、クリスチャンとしての奉仕の機会提供、リーダートレーニング、そして場所を移しての交わりなどです。この

働きは、JCECSの主催、また地域教会の協力のもとで行なわれ、若者たちは地域のコーディネイターのもとで奉仕することになります。

このプログラムへの受け入れ条件は、クリスチャンとしてのはっきりした証しを持ち、このミニストリーのすべての必要について主に信頼し、チームワークを保ち、福音をきちっと伝え、人々をキリストに導く備えがあり、16歳以上であることです。参加者は、各々に財政、また祈りのサポートを募るよう求められています。

教会の将来となる若者たちを皆さんで励まし支えましょう。

---

## キャンプ50周年の祝い

ディレクター デイビット・キング

時の経つのは早いもの。JCECSキャンプにも同じことが言えます。春の訪れを少しずつ味わいながら、50回目のキャンプの準備をすすめています。今回は、特に記念に残るものをと願っています。来て頂くキャンパーについても、(かつて来た人、戻ってくる人、今いる人々も共に)大きな期待をもっています。

キャンプは参加する人々にとって多くの交わり、そして数えきれない思い出となってきました。ひとりひとりが、そのことを思い出すことができると思います。1953年のKootenay Kampをかわきりに、1962年からのBow Valley Camp、そして1975年

からは、現在も続いているSunnyside Campまで、1ダースのスクラップ・ブックに思い出が、いっぱいつまることでしょう。特に、多くの人が、友人たちや愛する人たちがキリストを受け入れる決断に導かれたことを思い起こすのではないのでしょうか。「キリストの御名のもとにある」、これこそ私達の共有する絆です。

今年、私達は「主によるこぼれる」というキャンプを目標にしています。いままでのキャンプの恵みを思い起こし、また主が備えてくださる未来に目を向けようとしています。

# レスブリッジ日系クリスマスチャンフェローシツ

## 中尾 善之介師

JCECSがわたしたちのミニストリーのためにサポートとお祈りを下さってから、神さまがL.J.C.Fに注いでくださった多くの恵みを、ご報告できます事を心から光栄に思っています。私達は10月6日にエスタ・坂本先生をお迎えして創立20周年の記念会をもちました。記念会では先生が励ましのメッセージをして下さり、45名の方々がアルバータやサスカチワンからお祝いに駆けつけて下さり、恵まれた時をもつことができました。

私達は毎週木曜日に祈禱会を持っていますが、それぞれが教会として集まり、共に祈りあう中に、主の御手が確実に動いていることを教えられています。

秋からESLのクラスを始めましたが、3人の新しい方が来てくださいました。またその中の1人は聖日礼拝にも出席してくれています。若い頃にサニーサイドキャンプに参加されていたウェンディー・ウォーレンさんが先生としてお手伝いくださっています。また新たにレスブリッジに引っ越してこられたカナディアンのご夫妻と、日本人の女性が私達の群れに加わって下さっています。

毎月新しい方々をお招きする為に‘スポーツデー’を行なっていますが、一月はスノーボードとアイスフィッシングに行き楽しい時を持ちました。また林崎家の皆様は、ほとんど毎週のようにおうちを開放して下さり、夕食や交わりの時を提供して下さっています。彼らのホスピタリティーから、多くの方が神の愛と弟子としての姿を学ばされています。来月には更に新しい学生がこのスポーツデーに加わる予定です。

私は現在、レスブリッジ在住の2人の日系人牧師と2人のカナディアンの牧師とコンタクトを取り続けています。1人の日系人牧師からテイバーにある家庭集會に招かれ、お年よりの日系人へメッセージをするように依頼されました。これらの牧師先生方は私達に多くの力をかしてく下さり、たくさんの励ましを与えて下さいます。今、林崎兄弟と私は、祈りの会としてのメンズブレックファストを計画しています。私達は共に集まり、南アルバータ地域に住む日系人の救いのために祈りの手を上げ

たいと思っています。すでに最初のミーティングを2月23日に行なう予定になっています。

私達は例え小さな群れであり、また若いユースであってもこの教会員の皆さん

から、その姿を通して神様の愛を教えられ、励まされています。一人の高校生（酒井たかゆき君）が既に洗礼準備会を始めています。どうぞ彼の為に、またその他の礼拝出席者の為にも引き続きお祈りください。

皆さんの忠実な祈りとサポートにより、私達の南アルバータでのミニストリーが支えられています事を心から感謝いたします。わたしたちはこのクリスマスに、神さまから素晴らしい恵みの体験を与えられました。ある日、二世の日系人の御婦人からEメールを頂きました。彼女がおっしゃるには、彼女のご家族がこのクリスマスに神さまからの愛と恵みを共に分かち合う神の家族として、私達の家族を選んで下さったということでした。そしてクリスマスの一週間前、彼らは私達の家のクリスマスツリーの下を埋め尽くすほどの、10箱のプレゼントとたくさんの日本の食品を送って下さいました。クリスマスの朝、私達はそれをとても喜んで頂きました。神様は故郷を離れても、いつでもどこでも私達を見守って愛して下さるのだと教えて下さり、このことを通して恵みと平安に満たされたクリスマスを迎えさせて頂きました。神様は多くの人々の愛を通して、私達を励まして下さいます。私達は引き続き「あなたがたが私を選んだのではない、わたしがあなたがたを選んだ。それはあなたがたが行って実を結ぶためです。」とおっしゃる神さまのみ心を求めて、主に仕えていきたいと願っています。



## ケビン・田淵師へのインタビュー

トロント日誌

私は子どもの頃から両親に連れられて教会に行っていて、神さまについての概念を早くから持っていました。25歳の頃私はトロントで巡査をしていましたが、職場の同僚に勧められ教会に行き、そこでイエス・キリストの主権を理解しはじめました。

わたしは外国にいる人々のいろいろな必要に心を留めていましたが、仕事をやめてバイブル・スクールに行く

べきかどうかもがいていました。けれども私とその決断をした時、神さまが導いておられるのだという全き平安と確信が与えられました。

(3ページに続く)



# New Westminster 福音自由教会

## 日本語グループ

ジェイコブ・フリーセン師

私たちは長老イテロが、彼の有名な義理の息子に与えた助言に強調点を置いて、2001年を始めました。（出エジプト記18：19—21）。モーセは、「自らがもちこたえることができ、民も平安のうちに自分のところに帰ることができるために」このことをイテロによって助言されました。彼には、働きを統合し、5つの範疇の命令を実行する必要がありました。

私たちがゴールとした5つの命令は次のことです。

### 1、聞きなさい—「私の言うことを聞いてください」

会衆が、個々の関心や心配事、また感謝の意などを自由に言葉に言い表していく場として「Share Session」をしていくことを考えています。これは同時にリーダーにとっても学びの時となります。

### 2、とりなしなさい—「事件を神のところに持っていきなさい」

キリストは、祈りの答えとして、収穫の為の働き手を送られると言っています（ルカ10：2）。また使徒パウロは、感謝を込めて祈りと願いをささげることによって、すべての点で幸いを得、また健やかであると述べています（ピリピ4：4—7）。神が私たちを通して働かれるためのカギは、プログラムではなく、祈りであると考えます。

### 3、教えなさい—「彼らにおきてとおしえとを教えなさい」

牧師も教師も、聖書に基づいた真理を伝えていくことに力を入れていく決断をしました。焦点は、最も聖い信仰の上にお互いを築き上げていくこと（ユダ20節）、主の御心を成すためにすべての良いことについて、お互いを建て上げていくこと（ヘブル13：21）、教えを受けている者が、他の人にも教えていくことができるように教えていくこと（2テモテ2：2）です。

### 4、ならいなさい—「彼らに生き方を示しなさい」

例を示していくことが、言葉で命令していくより有効であることは、知られていますが、それと同時に失敗の中心となる原因は、悪い例を見せていくことだともいわ

れています。私たちは、人々が選択を迫られる状況に直面する時、引き続き祈り、説教し、教えていく決意をしました。私たちの意思が聖書の真理と出会い、信じ従っていく決意がなされるで



しょう。み言葉と聖霊をとおしたキリストにある一致なしでは、効果的に手本をみせていくことは不可能です。

### 5、委託しなさい—「力ある人々を選びなさい」

み言葉のなかにこの命令が何度となくでてきます。モーセは「力ある人を選びなさい」（出18：19-21）と語られ、初期の使徒の教会には「御霊と知恵とに満ちた人々を選びなさい」（使徒6：3）と、またパウロはテモテに、健康に成長していく教会の要素として、「多くの証人の前で私から聞いたことを、他の人にも教える力のある忠実な人たちにゆだねなさい。」（2テモテ2：2）と言っています。私たちは、さまざまな人々を招き入れるためドアを常に開いていきながら、祈り、計画し、整えていくことに同意しました。そのことによって、すでに与えられている賜物が認識され、使われていくためです。

2002年の新目標の達成を願うと同時に、2001年の目標が達成されることも願っています！私たちは日本人としての独自性を持ちつづける二層の教会であることよりも、他の11の民族の人々と信仰により交わり、お互いをキリストの体の大切な部分として共に成長していく、真の聖書的群れであることを目指しています。もしわたしたちが偏狭した信仰により快適な方法にとどまっているならば失敗するでしょう。困難な挑戦ですが、聖書に書かれている真理として、目指し続けています。

（2ページ 朝食会続き）

卒業後オンタリオ州でFirst Nations People（原住民）の人々に奉仕しましたが、ここではコミュニティーリーダーたちの回心に立ち会い、大きな感動を味わいました。

宣教の働きに導かれたのは、イエスの再臨が近いということや、聖書の預言的メッセージが私の心をとらえたためです。日本での宣教願望の、もう一つの要素は、Eastern Pentecostal Bible Collegeの牧野牧師との出会いでした。

神さまの御声の認識は、聖書を読むことではっきりします。それが神さまからのものか、そうでないかを判別することができます。私たちにはその確信が必要です。

私のこれからのビジョンはキリストをもっと個人的に知ること。そして日本をはじめ、世界的に人々に届いていく—アフリカ、カナダ、イヌイット First Nations People—ことです。3世として日本人のメンタリティーを知り、祈りをとおして日本のリバイバルを願っていきたく思います。

# 私の弱さのうちに神の強さが

証し：ジャネット・

主にあってごあいさついたします。ここに証しの機会が与えられ、感謝します。

クリスチャン・ファミリーに生まれた私にとって、覚えている限り神さまは私の生活のなかに臨在しておられました。9才の時、キャンプではっきりと神さまの子どもとされる時が与えられ、罪人である私のために、キリストの赦しの必要を知りました。その後いろいろなことが起こりましたが、高校生の時に私の生活の中でたいへんなことがありました。孤独な時を過ごす私に、神さまは御自身の真実な愛を示し、私が神さまに立ち返るのを助けてくださいました。私の弱さのうちに神の強さを知りました。

**「私は、わたしを強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。」**（ピリピ4：13）  
もっと神さまのことを学びたかった私を、Prairie Bible Collegeに神さまは導かれました。

私は現在3年に在籍していますが、神さまはわたしを教師にするために備えておられると信じています。私は神さまに、子ども達に対する愛を私に与えてくださったことを感謝しています。願わくは神さまの愛を、子ども

達に反映することができまうように。

今年、神さまは私に、御自身の時にかなった導きについて教えつづけていてくださいます。「**天の下では何事にも定まった時期があり、すべての営みには時がある。**」(伝道者の書3:1) 私の生活の中に、自分が理解できないことが起こった時、私は尋ねました。「なぜ、今このことが私に起こったのですか。」でも私は、神さまが私達の質問を用いて、神様に焦点を合わせるのを助けてくださると信じています。試練、それとも喜び、何が起ころうともそれは主の手の中にあり、主の時のうちにあります。私は主に信頼し、神様がすべてをコントロールしておられることを知るよう学ばされています。私は主を求めめる中で、神さまが継続的にご自身とその御業により驚かせてくださることを思い、主をほめたたえます。



## トロント日系福音教会

日本語部

矢野 譲師

「牧師」という肩書きを耳にする時、「人々が牧師に期待することはなんだろう」と、思いをめぐらす時があります。多くの人々は、牧師が病院のチャプレンのように、教会員のお世話をすることを期待しています。ある人々は、牧師が、伝道者、ワーシップ・リーダー、あるいは聖書の教師であることを期待しています。

私は、神さまが、牧師の役割について語っておられることをいつも思い起こすように心がけています。

エペソ人への手紙4章12節には、そのことがはっきりと命じられています。

**「それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり」**  
聖書は、私達に「牧師は（聖徒たちを）整える者」とであると教えています。

トロントに来て6年の間、教会に仕えてきました。牧師たちが、教会で、神さまが命じられるとうりに「整える者」として奉仕しつづけていくことは、むずかしいことだと思えます。けれども私は神さまに、この教会のリーダーたち、また教会員の方たちのため感謝しています。彼らは、私が「整える者」の役割に専念して、牧師として奉仕することについて、とても忍耐をもってくださるからです。

私は、自分がチャプレンのように動き回るよりも、誰かが、人々を病院や家庭に訪問することができるように

助けようとしています。私は、自分が伝道者のようになるよりも、誰かが人々にキリストの愛を分ち合い、救いに導けるように助けようとしています。わたしは、自分が聖書の教師になるよりも、誰かが訓練されて、聖書の学びのリーダー



や、礼拝でメッセージを務められるように助けようとしています。牧師がひとりで行く役をこなすより、これはずいぶん時間のかかることであることは承知しています。そうであるがゆえに、聖書が語る健やかな教会になるために、私はこの教会のリーダーたち、また教会の方たちの忍耐に感謝しています。なぜなら健やかならば、成長は自然に結果として与えられるからです。

私の祈りは、私たち牧師が、「整える者」として、神さまの目的のために教会に仕え、教会が健やかで成長し、主の御名が教会をとおしてほめたたえられるようになることです。